

<提言書・ダイジェスト版>

若者が夢を持って活躍できる岡山への転換
『大学コンソーシアム岡山』活性化による
新たな取り組みの推進

2025年2月

一般社団法人 岡山経済同友会

「大学コンソーシアム岡山」産学官連携を通じた活性化の難しさ

危機感や高い問題意識の共有の
ないところに強い連携は生まれてこない。

どのような経済社会の問題についても、そこに問題があると認識し、
その解決が決定的に重要であると多くの人々が理解しない限り、
解決に向けてエネルギーは生まれず、
その結果、課題はいつまでも放置され、事態は悪化する。

これからの地域を考えるにあたって

「少子高齢化・人口減少・出生率低下」等人口問題こそ産学官共通、最優先の地域課題
(人口減少対策は2030年がタイムリミット)
さらに、人口減少により、定住人口・交流人口・関係人口を含め、各地域間の競争も激化

短期的視点での課題解決施策ではなく、
長期的視点での本質的な課題解決策展開が必要不可欠（「強靱化戦略」の背骨は人への投資・教育）

*「強靱化戦略」については『人口ビジョン2100』参照

若者の地域定着に向けた「次世代を担う大学生を中心とした若者たちが住み続けたいと思うまちづくり」
という視点から産学官が連携して先進的な地域を創造することが重要

したがって以下3点が必要

- (1) 若者たちが描く将来ビジョン
- (2) 社会課題の抽出と既成概念にとらわれない解決策の創出
- (3) フレキシブルな発想とデジタルをはじめとした先端技術の有効活用

「大学コンソーシアム岡山」活性化によるポテンシャル

- (1) 岡山県内の高等教育機関の連携と地域社会及び産業界との緊密な連携により「時代に合った魅力のある高等教育の創造」と「活力ある人づくり・まちづくりへの貢献」につなげる
- (2) **大学の主役は学生**。大学コンソーシアム岡山は、次代を担う若者と、産業界や地域社会（行政）が未来について自由に対話できる**ユニークな団体（ネットワーク）**
- (3) 産学官金言民という思想も発想も異なるものが一緒に「地域の課題」や「時代に合った高等教育のありかた」について考えていくことのできる場
- (4) 「大学コンソーシアム岡山」には岡山県内にあるすべての大学が加盟し、これまでも様々な活動を積み重ねてきており、将来的に「**知の集積の場**」として地域活性化に貢献できる大きな可能性がある
- (5) 岡山県内の大学にはグローバルなネットワークを持つ様々な分野の研究者と、次代を担う学生が在籍

異なる世代やセクターが共に地域課題を考え、そして解決策を見出していくことが求められている。
世代やセクターが違えば相互に理解することは難しいが、いま世界で起きている紛争などをみても
お互いの違いを乗り越える「知恵」が求められていると強く感じる。

提言フェーズ1：これからの大学コンソーシアムの土台作り-1

産学官が一体となり大学コンソーシアム岡山の事務局と全体運営及び予算体制を修正・強化

「大学コンソーシアム岡山」活性化の難しさ

会員拡大と魅力的なコンテンツづくりと発信を
現状の限られたリソース（予算・人員）で
同時に行わなければならない点

現状の「大学コンソーシアム岡山」の
予算・事務局体制では
一気にプラットフォームを構築することは困難

提言フェーズ1：これからの大学コンソーシアムの土台作り-2

産学官が一体となり大学コンソーシアム岡山の事務局と全体運営及び予算体制を修正・強化

最初のステップ

既存の運営体制再構築に向け 産学官のトップリーダーによる強いリーダーシップが不可欠

- (1) 産学官連携での**既存事業の見直し・統廃合**（**既存事業事務負担軽減**）
- (2) 基本方針検討委員会の意向がスピーディーに反映され、
時代ニーズに適合した**フレキシブルな連携運営**が可能となる体制へ変革
- (3) 自治体・企業の会員化を進め、予算を確保するとともに、**事務局体制の増強**

提言フェーズ1：これからの大学コンソーシアムの土台作り-3

産学官が一体となり大学コンソーシアム岡山の事務局と全体運営及び予算体制を修正・強化
マンネリ化した既存事業の事務負担を軽減し、将来性のある事業へ限られたリソースをシフト

基本方針検討委員会設置後の組織運営についての提言

- (1) 将来構想委員会は基本方針検討委員会へ改組・廃止
- (2) 企画会議は運営委員会に統合し事務負担を軽減
- (3) スピードに各種施策が実行できる体制へ転換
- (4) 組織の変革を通じた既存の運営委員会の機能拡大
- (5) 基本方針検討委員会・運営委員会で各種施策実行

<旧・組織運営の流れ>

- ① 企画会議
- ② 運営委員会
- ③ 将来構想委員会
- ④ 代表者会議

<新・組織運営の流れ>

- ① 基本方針検討委員会・・・今後の基本方針策定
- ② 代表者会議・・・基本方針承認
- ③ 運営委員会・・・基本方針に基づく実行プランの策定
- ④ 基本方針検討委員会・・・承認 ⇒ 運営委員会で実行

提言フェーズ2：これからの大学コンソーシアムの活動への期待作り-1

岡山の魅力を知る「地域学」の普及と地学地就、Uターン・Iターンを誘う人口対策業務を大学コンソーシアム岡山が担う

市町村や経済団体・企業に向けた**会員拡大の実施と運営予算の充実**

会員メリット

岡山県内の高等教育機関、産業界や行政が相互の結びつきを深め、教育研究の更なる向上。
PBL・STEM・コーオプ教育の充実（地域学）

学術研究や教育の成果が地域社会・産業界へ向けて還元

「地域課題解決のための地域学（ニース型イノベーション）」
を通じた地域創生へ転換

提言フェーズ2：これからの大学コンソーシアムの活動への期待作り-2

岡山の魅力を知る「地域学」の普及と地学地就、Uターン・Iターンを誘う人口対策業務を大学コンソーシアム岡山が担う

岡山地域での人口減少対策 ⇒ 若者を交えた地学地就を通じ、岡山の関心を高める

大学生だけでなく、転職を考えるUターン、Iターンの社会人、留学生を含めた就職支援窓口を開設し各大学の就職課と大学コンソーシアム岡山（運営委員会）の連携を強化

会員メリット

「大学コンソーシアム岡山」主催で大学生採用に向けた
「インターンシップ説明会」への出展や「長期インターンシップ」の支援等

企業会員拡大へのメリットとして
「岡山県合同企業インターンシップ説明会」へリニューアル

提言フェーズ3：これからの大学コンソーシアムの実績作り-1

大学コンソーシアム岡山を地域課題解決のためのプラットフォームへの方向性

- ①大学コンソーシアム岡山 オープン・データ・キャンパス創設
- ②若者による地域ビジョンの策定（次世代型地域シンクタンクへ）
- ②地学地就の循環を通じた自立した地域づくり
- ③社会課題解決のためのイノベーションの創出
- ④人口減少問題 強靱化戦略の解：創発で前進、学びと挑戦のできる
若者に魅力的な岡山への転換
- ⑤若者連携により地域固有の活力ある未来社会を創造

提言フェーズ3：これからの大学コンソーシアムの実績作り-2

大学コンソーシアム岡山を地域課題解決のためのプラットフォームへの方向性

①大学コンソーシアム岡山 オープン・データ・キャンパス創設（デジタル掲示板）

- ・各大学・大学間連携等通じて大学起点・大学接点で創発的に行われている新しい取り組みを**デジタル技術活用により産学官で情報共有**できる**情報インフラ**を整備（最新の学術研究やサークル課外活動、有志による地域振興イベント・大学発ベンチャー等） *バルセロナのオープンデータ・ガバナンス参照

②若者による地域ビジョンの策定（次世代型地域シンクタンクへ）

- ・国家ビジョンを参考に、実現性高い地域ビジョンを個人資格で自由に提言
- ・若者による提言を参考にした各種政策・施策の実行

③地学地就の循環を通じた自立した地域づくり

- ・地域内人口の維持・確保（人口好循環の創出）＝地学地就の循環
- ・地域内循環経済＝エコシステムの構築
- ・食料安全保障の確立（域内自給率の確保）

提言フェーズ3：これからの大学コンソーシアムの実績作り-3

大学コンソーシアム岡山を地域課題解決のためのプラットフォームへの方向性

④ 社会課題解決のためのイノベーションの創出

- ・地域社会・産業界の課題解決を目的とした「ニース型イノベーション」の創出
- ・「ニース型イノベーション」創出に向けた「STEAM教育」の重要性
- ・スタートアップ企業集積のポテンシャル
- ・課題解決に向けた最先端研究機関の創出 * 沖縄科学技術大学院大学 OIST参照

⑤ 人口減少問題 強靱化戦略の解：創発で前進、学びと挑戦のできる若者に魅力的な岡山への転換

- ・規模よりスピードと柔軟性、多様性を優位とする小さくても光る特色ある若々しい強い個が集積した、新しい岡山への転換

提言フェーズ3：これからの大学コンソーシアムの実績作り-4

大学コンソーシアム岡山を地域課題解決のためのプラットフォームへの方向性

⑥ 若者連携により地域固有の活力ある未来社会を創造

- ・国からの共通プラットフォームと、地域固有の課題解決と独自の挑戦に特化した活動という「二階建て」の発想で地域を活性化
- ・小々な規模であっても世界に通用する特色ある地域群の創造
- ・一人ひとりが活躍するフィールドを広げるために、日本での活躍が世界での活躍に直結するグローバル化に対応したイノベーション環境を産学官で整備
- ・大学の垣根を越え、各大学の得意分野を活かした展開
- ・将来的には高校生にまで拡大、高校と大学の連携強化による継続的な高等教育の深化
- ・社会課題解決に向けた**PBL (Project Based Learning)** の導入
- ・留学生参加による多様な価値観の共有
- ・地元企業・自治体の若者社員・職員・教員参加による実践的学習
- ・将来的には大学コンソーシアム岡山を活用し、産学官民で協働して各自治体の総合政策や各種計画等を立案
- ・立案段階から関わることで次代を担う若者に当事者意識を育成

おわりに

「草創と守成孰難」

草創と守成といずれか難き

『貞観政要』より

